

「わだつみの悲劇をくりかえさない」という誓いを後世に伝え、平和をつくる営みにつなげる

わだつみのこえ記念館館長 渡辺 總子

平和資料館めぐり⑬



京博物館で大規模遺稿展を3回、館内での企画展を4回、昨年は『戦没学生の遺稿みる「時攻」』展で14人の方々の

日記、遺書、遺品を展示しましたが、常設展では、『きけ わだつみのこえ』に収載の戦没学生の日記、手紙、遺書、遺品と、開館後に寄託された『こえ』以外の戦没学生を加えて、34人、約150点を展示し、さらに関連する資料・書籍・映像等も収集・保管し、研究に供しています。

を散逸から守る最後の機会と考へて、戦争体験世代と、一回り下の世代の者が協同して寄付金集めと土地探しに奔走し、また、遺族のもとに保管され

一隅には、1944年1月20日に、強制的な「志願」によって「出陣」した朝鮮人学徒兵の資料を展示し、さらに生還者の聞き取

少し歴史を遡らなければなりません。1949年に『きけ わだつみのこえ』が東京大学協同組合出版部から刊行され、その翌年の1950年に日本戦没学生記念会(わだつみ会)が設立されました。この書はベストセラーとなり、遺族の方々の印税寄付によって7つの事業が企画されました。そのうちの1つに「戦没学生の記念像、記念館」案があったのですが実を結ばず、さらに1970年には、学徒兵世代が主になって小委員会をつくり「記念館設立アピール」で「原手記を集め一堂に永久保存し展示して戦没学生の遺念を語る記念館建設を」と内外に呼びかけましたが、進展を見ませんでした。

そして「学徒出陣」から50年の1993年、元学徒兵も遺族も老境に入り、いよいよ遺稿・資料

ていた学生の遺稿・遺品・遺影を提出していただいて大規模な遺稿展を数回開いて人々に訴え、支援の輪を広げる活動を続けた結果、13年かかりましたが、2006年12月、本郷の地に約100㎡の小さな記念館を開館することが

できました。わだつみ会のそれまでの活動の成果を引き継いだ「NPO法人わだつみ記念館基金」が運営しています。2012年には、「認定NPO法人」となり、寄付金は税法上の優遇措置が受けられることになりました。

開館から8年の間に、江戸東



りなど、「もうひとつのわだつみのこえ」を伝える活動にも力を入れてきました。

戦争の記録・記憶を次世代にどうつないでいくか。当館にとっても、財政基盤の確立と担い手の育成と共に、設立以来の課題

です。まずは「記念館」という場を活かして、企画展、講演、映画会などを開催して戦争の実相を伝える、平和を志す団体や皆さんと交流・連帯する、積み重ねてきた諸資料をデジタル化し、公開して公共の財産とするアーカイブも、まだ夢の段階ですが考えています。

今年は戦後70年の節目の年ですが、それにこだわりつつも、その先につながるような事業を企画中です。

どうぞ一度ご来館いただければとスタッフ共々願っております。

【問い合わせ先】

わだつみのこえ記念館
〒113-0033
東京都文京区本郷5丁目29-13

赤門アビタシオン 1階
電話・fax 03-3815-8571
E-mail :
info-wadatsuminokoe.org
URL: http://www.wadatsuminokoe.org/

◆開館日・時間

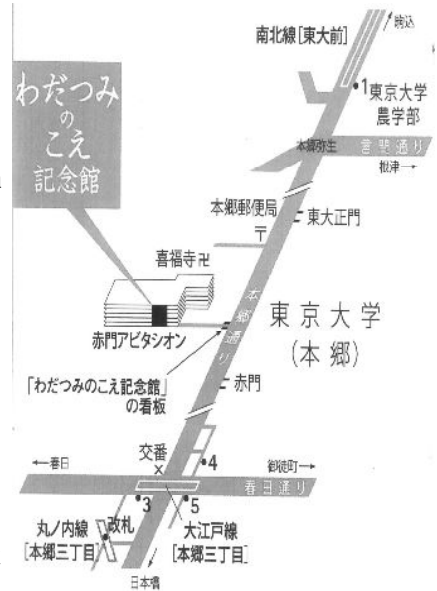
月・水・金の午後1時～4時
夏季休館:8/18～8/30

*団体の場合は曜日・時間等相談ください。

入館料 無料
(資料閲覧・映像の視聴は事前に連絡ください)

◆アクセス

地下鉄丸ノ内線・大江戸線
「本郷三丁目駅」下車7分



わだつみのこえ記念館

認定NPO法人 わだつみ記念館基金
〒113-0033
東京都文京区本郷5丁目29-13 赤門アビタシオン1階
Tel/Fax | 03-3815-8571
E-mail | info@wadatsuminokoe.org
ホームページ | http://www.wadatsuminokoe.org

『決定版 東京空襲写真集』刊行記念
東京空襲写真展

東京大空襲・戦災資料センター2,015年第1回特別展
展示期間

2015年2月25日（水）～4月12日（日）

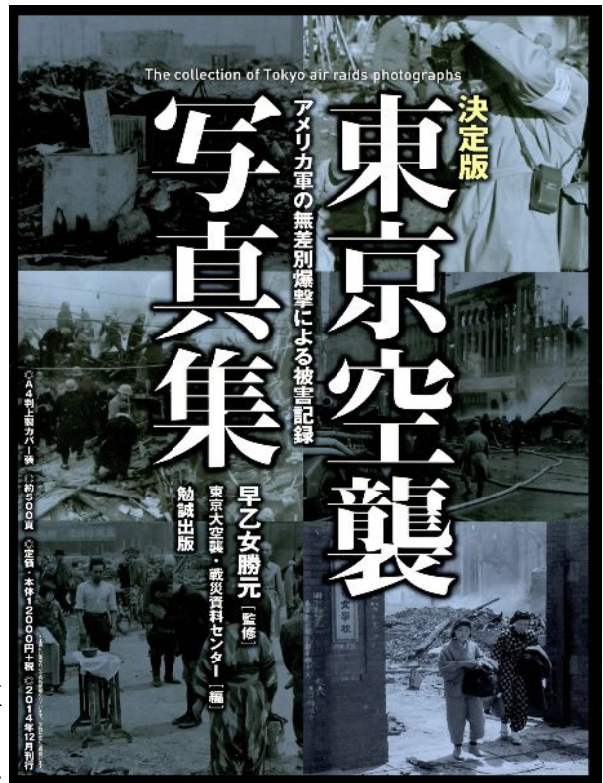
■ 記念講演会 ■

日時 2月28日（土）14時～17時
会場 東京大空襲・戦災資料センター会議室
講師 井上祐子（東京大空襲・戦災資料センター主任研究員、京都外国語大学非常勤講師）
山辺昌彦（東京大空襲・戦災資料センター主任研究員）
大堀 宙（明治大学院博士後期課程）
当日先着 50名様

東京大空襲・戦災資料センターは、このたび勲誠出版を通じて「決定版 東京空襲写真集」を編集・発行しました。本写真公社など

この写真集は、東京への空襲を撮影した1400点以上の写真を可能な限り集成し、網羅的に収録したものです。警視庁カメラマンの石川光陽さん、陸軍参謀本部に属し

ていた東方社、写真宣伝の中核機関であった日本写真公社などの貴重な写真群をはじめ一冊にまとめたものです。4判上質カバー装 約500頁 定価：本体12,000円＋税



勲誠出版：〒101-0051
東京都千代田区神田神保町
3-12-10 共立ビル7F
電話03-5215-9021
Fax03-5215-9025

旧日本軍の遺棄毒ガスによる被害者検診に行ってきました

健和会臨床看護学研究所・看護師 宮城恵里子

私のプロフィールです。
2010年に初めて毒ガス被害者の検診に看護師として参加し、被害者の身体の調子や普段の暮らしぶりについて伺いました。その後、ケアみらい基金の運営委員会に参加するようになり、いつの間にか運営委員に。それ以降の検診（2012年6月、2013年3月、2014年10月）では、コーディネーターとともに検診日程や場所等の調整をしています。裁判の傍聴やこの被害のスタディツアーにも参加し、ライフワークとして携わっています。

検診は、10月25日から27日まで、中国東北部、黒竜江省の省都ハルビンで行われました。この検診は、化学兵器CAREみらい基金※が全日本民医連の協力を得て実施しているもので、今回で6回目になります。北海道、東京、京都、大阪、兵庫から15名（事務局1名、医師4名、技師1名、OT4名、PT2名、ST1名、NS2名）が参加しました（通称「チーム毒ガス」）。毎回新しいメンバーが参加していますが、今回は9名が初めての参加でした。協議会からは藤井正實医師、姜技師（芝診療所）看護師宮城（健和会）が参加しました。

今回は、検診だけでなく「少しでも治療を」という誘いで、被害者に呼びかけました。と言うのも、被害者達は医療費が高く、日常的に医療機関にかかれなからです。借金をして医療機関にかかるか、あるいは、街の薬局で適当に薬を買って症状に対応するのです。という事情もあり、2010年以降では



【写真】左側が私です。右側は、于景芝さんとおっしゃいます。チチハルに住んでいらっしゃる毒ガスの被害者です。

最大の29名が参加されました。仕事に就けない健康状態で収入もない生活実態は、1年前よりも深刻な状況になっていました。より詳細な身体の状態を知るために、体力、高次脳機能検査に加え、MRIや胃カメラ、神経伝導速度等々の検査も加わり3日間、目いっぱいスケジュールでした。検査は、主に嘉潤病院という民間病院で受けましたが、この施設で行えない検査も複数あり、ハルビン市内の病院（移動に往復2時間強）でも行いました。この調整は嘉潤病院の検査科が一手に引き受



【写真】外観だけは完成した新嘉潤病院（中央部の白い高層ビル25階建て）



【写真】内科医師の診察風景
左側は通訳さん

けてくれました。「こんな検査はうちではとても請け負えない」と参加メンバーが口にするくらいの怒涛の内容でした。検診会場は、昨年に続き嘉潤病院から程遠くない、しかし先回とは違うホテルでした。10月に嘉潤病院の新病院が開院する予定でしたが、まだ出来上がっていないと聞いたのは検診に出発する数日前でした。ですから、私は先発隊として他のメンバーより早く行き、検診会場となる部屋

かつて日本政府と軍部は、中国への侵略をすすめるなかで、大量の化学兵器を製造し、中国国内に運び込み、使用しました。

吉林省敦化市にあるハルバ嶺地区には、日本側の推定でも30万～40万発の旧日本軍の化学砲弾などが埋設されており、中国側は200万発が存在しているとしています。

いずれにしてもハルバ嶺は中国国内でも最大の埋設量がある地点とみられています。

こうした状況の下で遺棄毒ガスによる被害がひろがり、こうした被害に苦しむ人々を救援するため全日本民主医療機関連合会も医療従事者を現地に派遣しています。

宮城さんもその一人としてたびたび現地に渡り、救援活動に参加したいです。

の確保、必要物品の確保、流れの確認等、嘉潤病院の検査科の方との打合せ等、そして何より大切な昼食会場探しをして、本隊を迎えたわけです。



【写真】新潟からの直行便が就航しているハルピン空港

本隊が到着する24日は、朝から靄（PM2.5+20日に一斉に始まった暖房+車の影響）がかかり飛行機が着陸できるか心配するようなことがありました。しかし、その後はそれほど酷い靄はありませんでした。

外観だけは完成していた新嘉潤病院（25階建）検査は、これまでとは違い、目に見える実施表をつくりました。と言うのも、弁護団の聞き取り調査もあつた為、それらももれなくできるようにするためです。



【写真】検査や診察の漏れがないように工夫した一覧表

今回の検診活動は中国のマスコミ（新華社、CCTV、黒竜江省TV?等）が取材に入ったこと、そして聞いていなかった中国人医師や看護師を突然、複数連れてきた事など、今までになく現場はごった返し状況でした（この件は話せば長くなるのでやめ）

が、多少滞りながらも予定通り行えました。

チーム毒ガスのメンバー力は素晴らしいです。この検診では、大小複数のいろいろな壁にぶつかります。しかし終わると、目の前にあることは乗り切れるような心持になるのです。

28日は731記念館の見学予定でしたが、26日に731記念館は工事中であるとの情報が入ってきたため、バスで往復



【写真】被害者を困んで全国の民医連から集まった検診メンバー

8時間程の「チチハルの毒ガス被害現場を見に行くチーム」と「シンポジウムに参加するチーム」に分かれました。（実は731記念館の工事は、私たちが出発する前から既に始まっていた）



【写真】報告会のシンポジストの方々

このシンポ「旧日本軍遺棄毒ガス被害者状況と未来に向けた報告会」は、遺棄毒ガス被害者を支援することを目的にした日中の民間団体の基金設立のため開催されました。基金は被害者の医療や生活支援に使われることになり、大きな一歩と言えます。ということで、中国のマス

コミも取材にきたのでした。

戦後70年を迎えようとしている現在、私たちは、何をなすべきでしょうか。このような被害者の失われた健康、生活、未来は、帰ってきません。高次脳機能障害になり、小学校5年のままで止まってしまった20歳の彼女の将来の夢「叶えなかった夢」は叶いません。現実は、残酷すぎます。昨年も述べたことですが、この検診活動に参加する意味は、医療人として被害者に対してできることは何か、日本人として過去の事実を知り、人間の愚かさを知り、二度と戦争を起こさない術を考えることにあると思います。次回は、ぜひあなたも参加してみませんか。※今回の検診では今までにない検査を行った為、化学兵器CAREみらい基金も極貧になってしまいました。

是非、会員になってこの活動を支えて下さい。関心のある方は、宮城（健和会臨床看護学研究所）までご一報下さい。

2014年11月 報告：宮城恵里子（健和会臨床看護学研究所）



【写真】こんな澄んだ日もあるハルピンの空

戦争いやだ！ 足立憲法学習会資料
足立にもあった戦争 (1)
 高橋俊敬

特定医療法人財団健和会
 医師部事務局長

安倍政権が集団的自衛権行使容認を「閣議決定」するなど、日本を「戦争する国」にする動きを強めていることを憂慮した団地自治会長の足立史郎氏、作家の早乙女勝元氏、弁護士の中 山武敏氏など足立区内に居住する有力者15氏が呼びかけ人となり、昨年8月「戦争はいやだ！ 足立憲法学習会実行委員会」を発足させました。

この呼びかけにたって最初の学習会が9月25日に開催されましたが、この学習会で講演された高橋俊敬氏から、資料が寄せられましたので、2回に分けて紹介します。（編集部）

1) 軍事施設の存在が危険を拡大する

足立には、9か所の対空高射砲陣地と照空燈（サーチライト）陣地があった。

このうち、西保木間には、当時陸軍が開発したばかりのB29が飛行する高高度まで砲弾が達する最新型の三式12糎高射砲が配備されていたが、1945年（昭和20年）4月13日東京の池袋～王子を中心にB29の夜間空襲があり、各地の高射砲陣地は猛烈な砲撃を加えた。しかし、空襲がもう終わりに近づいた頃、1機のB29「POCAHONTAS」号が墜落。B29は火の玉になって落下、空中分解して主要部分は現在の北加平町12-8付近に、尾翼部分は現在の谷中町の東京メトロ綾瀬車両基地付近に落下した。機体は数時間にわたって炎上し

たが、落下地点は当時田んぼだったので消火活動は行われなかった。その直後、無事飛び去って行く編隊の1機のB29が急旋回して高度を下げながら西保木間高射砲部隊へ向かい、8糎・7糎高射砲の弾幕をくぐり抜け、大型爆弾をばら撒いた。それが12糎高射砲を直撃し高射砲は沈黙した。

足立区の空襲被害は、3月10日の「東京大空襲」のような大きな被害ではなく、この4月12日深夜～13日未明の空襲で中心地の北千住がほぼ焼失し、宿場町通りから国道4号線側は特にひどく、旧足立区役所も

この時全焼した。足立区に墜落したB29は「POCAHONTAS」号の他に、3月10日の「東京大空襲」の時に荒川放水路沿岸に1機と5月25日に入谷の水田に墜落した1機の合計3機が確認されているが、この3機目が後に大きな問題を起こすことになる。

そのB29は南方から火を吹きながら飛来し、高度500メートルほどで空中爆発、現在のトラック・ターミナル付近（舎人公園西側）に墜落した。破片は広範囲に散らばり、エンジンは2日間燃え続けた。

足立区域の高射砲部隊

陣地	現在地	種類
舎人陣地	舎人四丁目付近	高射砲
梅島陣地	梅島一丁目付近	高射砲
保木間陣地	西保木間二、三丁目	高射砲
	保木間五丁目付近	
長左衛門陣地	谷中二丁目付近	高射砲
竹塚陣地	現十四中付近	高射砲 →照空燈
花又陣地	南花畑四丁目付近	照空燈
六ッ木陣地	六木三丁目付近	照空燈
嘉兵衛陣地	六町一丁目付近	照空燈
江北橋陣地	扇二丁目付近	照空燈

（出典：足立区立郷土博物館）



戦後、B29のプロペラ1枚が土地の所有者によって掘り出され、入谷中学校に寄贈されたが、現在は足立区立郷土博物館に保管されて常設展示されている。B29搭乗員の軍曹の2人は墜落死。浄光寺の住職が墓標を建立。機長らの8人がパラシュート降下して捕虜になり、東京憲兵隊へ送られ、戦後米国へ帰還。しかし、Dwight H. Knapp少尉はパラシュート降下し、荒川放水路に並行する綾瀬川付近に潜伏していたが、警防団員に発見されたためピストルを発射、1人を射殺、1人に重傷（後死亡）を負わせた。警察の捜査により、2日後に西新井駅の貨車の中に隠れているところを発見され、逮捕されて上野憲兵分隊に引き渡された。上野憲兵分隊長の堀江明少佐が彼を東京憲兵隊司令部へ連行したところ、司令官の大谷敬二郎大佐から「殺人を犯した米兵を捕虜として扱う必要なく、厳重に処分せよ」との指示をうけたため、部下の野口悦

二曹長に命じて千住新橋の南側の河原でknapp少尉を斬首させた。

戦後の戦犯裁判で野口曹長は懲役12年、大谷大佐は懲役10年となったが、上野憲兵分隊長の堀江少佐は戦後自決。（出典：POW研究会「東京上野憲兵隊事件」（GHQ報告書1139号 再審記録306号）

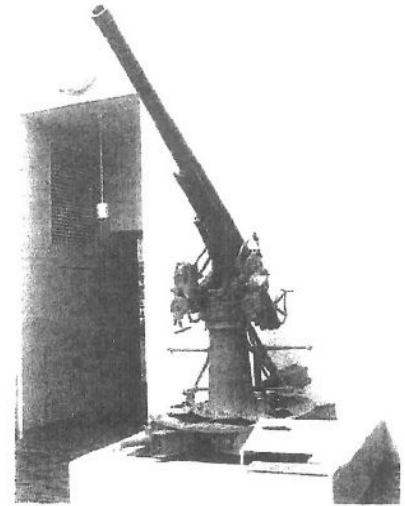
高射砲部隊の巻き添えとなった梅田地域

4月12日～13日の空襲の次に被害が大きかったのが、ナップ少尉の斬首事件があった5月25日～26日にかけての梅田、五反野地域でした。「東京大空襲・戦災誌」第4巻にある蓬田宗吉さんの手記から抜粋する。

5月25日の空襲で、梅田町は全焼した。百二、三十体ほどの被災死体は、黒土で作られた人形の、無残に崩れたような姿であった。とにかく遺体は、幸い焼け残った天理教浅草支部

（現在もそのままの姿で梅田病院前にある）の本堂の広庭に、防護団の担架によって集められた。中には、担架に遺体を乗せたままで、逃げるような団員もたくさんあった。間断なく米機による機銃掃射がつづいた。

この証言は、梅田町のすぐそばにあった梅島高射砲陣地と竹ノ塚照空燈陣地がねらわれたことを証明するものとなっている。B29による空爆と護衛戦闘機P51による容赦の無



靖国神社遊就館展示の88式7糎高射砲

い機銃掃射。

基地の存在は、防衛どころか、敵の標的となることを如実に物語っている。

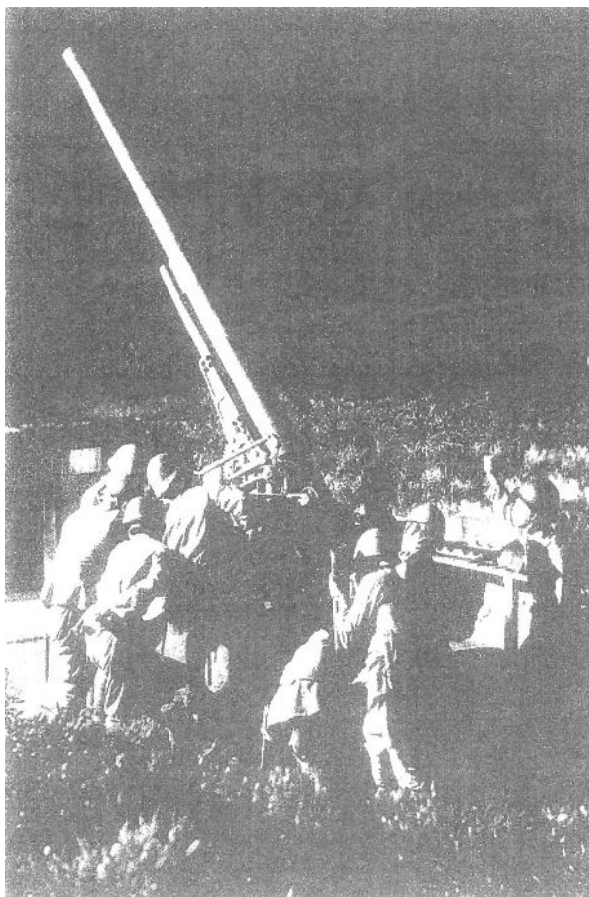
沖縄県名護市の辺野古に新たな米軍基地建設を強行しようとする政府に対して、名護市民・沖縄県民が党派を超えて反対していることも、この梅田の空襲を見ればよく理解できる。

B29に届かない高射砲

当時の日本陸軍高射砲部隊の主力は八八式七糎野戦高射砲（1938年制式採用、生産数2,000門、最大射高9,100mだが、これはカタログ値であって、実際には8,000mほどだったと言われる。12名で操作する）

当時としては旧式の高射砲が全国の高射砲部隊の過半数を占めていたので、12,000mの飛行高度のB29には届かなかった。高射砲はまったく無力なだけでなく、破片がまき散らされて落下するため危険ですらあった。

足立区の6ヶ所の高射砲陣地のうちで西保木間の部隊以外は、すべてこの八八式七糎高射砲だった。しかも旧式の高射砲でさえ「軍機」のために新聞報道できなかった。



第13回語り継ぐ東京大空襲(東京大空襲70年、戦後70年) 明治座・築地周辺の 戦争遺跡めぐりとトーク集会

第1部 フィールドワーク

＝明治座・築地周辺の戦争遺跡めぐり＝

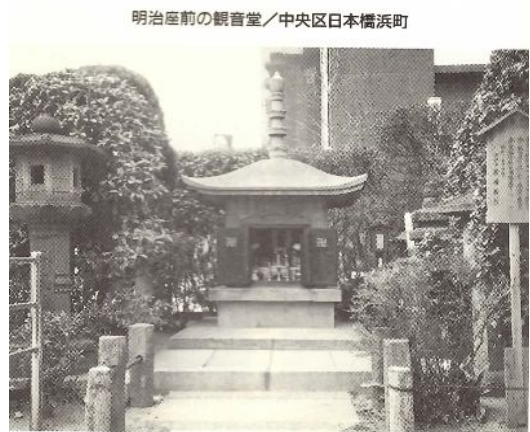
- ◇と き：5月31日(日) (雨天決行)
- ◇集合時間：9時30分(受付開始9時15分)
- ◇集合場所：都営地下鉄新宿線「浜町駅」改札口
- 〈コース〉明治座前・観音堂→(地下鉄・東京メトロ日比谷線「八丁堀駅」まで約500メートル徒歩)→(「八丁堀駅」から地下鉄に乗り移動・料金は各自負担170円)→(以下は順路ではありません)、築地警察署(1933年2月20日、小林多喜二を虐殺した場所)、築地小劇場跡、まぐろ塚プレート(第五福竜丸元乗組員・大石又七さんによって設置)、旗山記念碑(海軍発祥の地)、海軍兵学寮跡碑、海軍経理学校跡碑、勝どきの渡し跡(日露戦争・旅順陥落を記念して建設)などをめぐる予定です。

(昼食)

◇資料代：500円

第2部 トーク集会

- ◇と き：5月31日(日)
- ◇会場：築地本願寺 講堂
築地本願寺正面石段をのぼって左折し、奥の部屋
東京メトロ地下鉄「築地駅」下車2分
- ◇開会：13時30分
- ◇トーク
 - *宗教者として戦後70年を考える
延立寺住職 松本智量さん
 - *東京大空襲と明治座(仮題)
作家 稲葉喜久子さん
 - *平和プラザ実行委員会の活動
 - *2020年オリンピック・パラリンピックに向けて東京に都立の「平和祈念館(仮称)」をつくる署名運動について
- ◇資料代 500円



明治座前の観音堂/中央区日本橋浜町

1945年3月10日の東京大空襲の際、多くの人が明治座に避難しましたが、火災に包まれて亡くなりました。その人々の冥福を祈り、新田新作さんが発願して観音堂が建立されました。その向こうに見えるビルが明治座です。

主催 「東京都平和祈念館(仮称)」建設をすすめる会
平和プラザ実行委員会

【問合せ先】電話03-5927-1485、Fax03-5927-1487 (東京平和委員会)